

医療・介護・福祉・行政の多職種が連携し合い、住民の方が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう必要な体制づくりに取り組んでいます。



薩摩郡医師会在宅医療相談支援センターだより

# ひまわり



第47号 令和8年4月  
編集・発行 薩摩郡医師会在宅医療相談支援センター  
TEL(代表) 0996-53-0326(内380)  
(直通) 0996-53-4711(FAX兼用)

## 【在宅医療連携推進作業部会摂食嚥下・口腔ケア班】

令和8年度の摂食嚥下口腔ケア班は、口腔ケア研修会の開催とパンフレット作成を進めていくことを予定しております。口腔機能の状態や口腔ケアによる反応は個人差が大きく一筋縄ではいかないところもありますが、介護者の一助となる会を開きたいと考えております。「健康はお口から」という考えを軸として、可能である限り経管栄養やペグにならずにお口から食べる楽しみや健康をなるべく継続・再開できるよう力添えできればと思います。そのための環境づくりも重要と思ひ、対策について皆さんと協議していきたいと思ひます。

昨今、救急医療において本人の意思により蘇生行為を行わない選択をすることが全国的に進められているとのこと。いざという時にどういった選択を本人が望まれているのか。「健康はお口から」を実践する為に、「好物は何なのか」「人生の最後に食べたいと思うものは何なのか」などお互いの希望を語り合う機会を大切にすることが、在宅介護を担う介護者の心の支えの一部になると信じております。そんな環境づくりを目指していけるよう本年度も活動していきたいと思ひます。(文責:尾形文隆)



## 令和7年度第2回川薩地区在宅医療推進リーダー会議



令和8年3月3日(火)川内市医師会立川内看護専門学校において、委員34名(会場30名、オンライン4名)の出席で開催致しました。事前調査では、団体または職場におけるハラスメント対応体制や実際に起きているハラスメントの内容について回答頂きました。ハラスメントは年々増加傾向にあり、包丁を振り回された事例などとてもショッキングな内容も報告されました。それぞれの団体や職場で対策に努力されていることも分かりました。また、県の相談窓口が無い為、看護協会から県へ要望を出されていることも報告して頂きました。

また、令和8年度ハラスメント研修を計画している団体や事業所が複数ありました。

## あんしん医療連携シート医療機関別延記載状況 R8/3/31

	H29.8	R3.9	R5.3	R7.11	R8.3.31
A 医院	22	96	130	139	139
B クリニック	34	95	114	140	145
C クリニック	28	83	93	113	113
H 医院	9	59	97	154	169
I 医院	5	5	5	5	21
K クリニック	5	67	76	92	139
L クリニック		1	4	8	8
N 病院		3	3	10	15
P病院					6
M 診療所		13	13	13	13
延べ記載総数	119	446	560	699	794
現在の稼働枚数		165	157	97	162

【センターより】  
あんしん医療連携シートは、令和8年3月末現在、延記載数794枚となりました。さつま町:488名分、薩摩川内市:306名分となっています。左の表は、記載数の多い医療機関と最近記載して頂いた医療機関のみ表示してあります。今後ともご協力よろしくお願ひいたします。

## 令和7年度第4回さつままるネット研修会(2/13)

講演:「現場で起こる暴力・ハラスメントへの備えと対応」  
～患者・利用者・家族からのハラスメント対策～  
講師:びつぐすまいる訪問看護ST 管理者 柳田 氏  
日時:令和8年2月13日(金)18:30～20:00  
会場:薩摩郡医師会病院新館2階会議室  
対象:医療(医師を含む)、介護・障害福祉サービスに従事する専門職、行政等

**暴力・ハラスメント対策に取り組む目的**  
暴力・ハラスメント行為を排除しようとするのではなく、自宅を訪問する在宅ケア従事者が安全と自身の健康を確保しながら、療養所で受ける必要とする人々へのケアを提供し続けることができることを目的とする

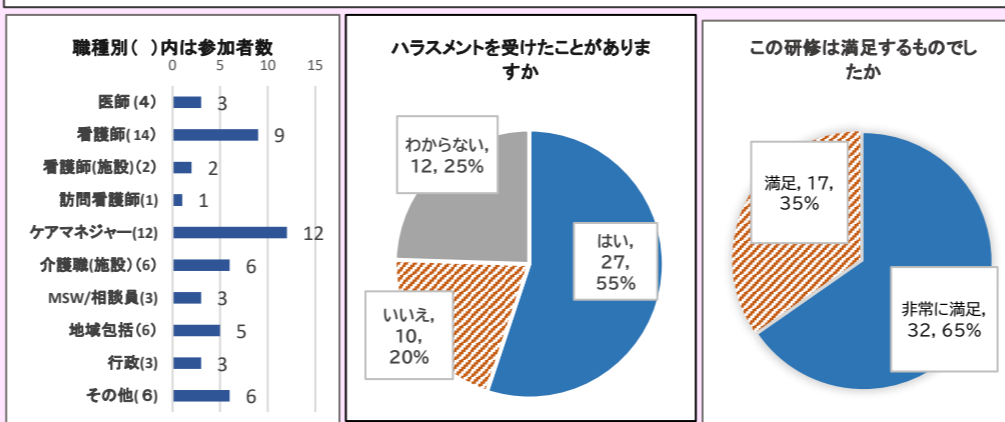
**暴力・ハラスメント対策の目標**  
\*暴力・ハラスメントの発生防止に努める  
\*発生時の被害を最小限にとどめる  
\*ケアの質と安全確保の両立に努める

講師資料より引用

※利用者への医療・ケア提供と経営状況を最優先し、従事者の健康や安全が脅かされてはいけない  
※車の両輪のように「利用者への医療・ケアの質の担保」と「従事者の安全確保」の両立が必要  
※従事者が利用者・家族から一方的に暴力・ハラスメントの被害を受けているだけではなく、その逆もあり得ることを心に留めておく



第4回さつままるネット研修会  
参加総数:57名 アンケート回収数:会場29名/49名 オンライン5名/8名(回収率72%)



【ご意見・ご感想(一部ご紹介)】  
・利用者、患者、家族は看護師や介護士などの医療職者はできて当たり前と考えている人もいる。利用者、患者だけを見ず背景を理解し寄り添ってあげたらお互いにお互いにお付き合い(医療職者と利用者として)ができるのではないかと思います。  
・1人の考えよりもいろんな人の考え方もあるのでよく耳を傾けて考える。どうしたらお互いを守ることが出来るのか難しい課題だと思った。  
・ハラスメントに関して事業所を管理する立場として、契約書に記載したり、利用者等に説明するように対策強化していますが、いろんな事例を想定し、対応を皆で意見を出し合い事業所として決めておくことは大事だと思いました。  
・グループワークでも他の方の考え方や意見を聞くことができよかったです。居宅ケアマネですが、利用者様よりもご家族によるハラスメントがあり、今回の研修で学んだことを今後活かしていけるようにしたいと思います。  
・利用者を困った人にしないという視点は、支援者として絶対に忘れてはいけないと思いました。どちらも自分らしく生命を全うできることが良いと思うので!  
・ホワイトクレーム/ブラッククレームの見極め。こちらの権利だけを言わないよう注意したい。管理者だけが悩むようなことにならないようにしたいものです。死んでからでは遅いし、断る、関係を断つ必要もあるだろう。(保身の記録・録音は必要だろう。)  
・ハラスメント対策に十分はないと思ひますが、一つずつ取り組みアップデートしていくことは大事だと思いました。

## 令和7年度第4回薩摩郡医師会在宅医療推進作業部会



令和8年3月10日(火)薩摩郡医師会病院2階会議室において、委員21名の出席で開催いたしました。多職種意見交換会やさつままるネット研修会、あんしん医療連携シートの記載状況などの報告の後、各班で令和8年度に向けた活動について話し合いました。ACP班では、チラシやポスターをどのように地域へ広げていくかについて、医療・介護連携班では、DNARに関する研修会を事例をもとに計画していくこと、摂食嚥下・口腔ケア班では、研修会の内容について検討されました。

① あんしん医療連携シート「あなたが主役の人生だから」  
あなたが大切な人が死なうちから  
大切な場面を想像して話し合おう

②-1 あなたが主役の人生だから  
人生会議 ACP  
Advance Care Planning  
大切なこと 大切なひと

②-2 大切な人が死なうちから  
大切な場面を想像して話し合おう

人生の場面によって、あなたの気持ちは変わりやすいもの。あなたが大切にしていることを、大切な人に伝えておきましょう。

令和7年度在宅医療推進作業部会ACP班を中心に、ポスター①、チラシ表面②-1、チラシ裏面②-2を作成いたしました。住民の方々に随時お届けしていきます。掲示や配布にご協力頂ける場合は、在宅医療相談支援センター(53-0326)までご連絡ください。

## 令和7年度在宅医療・介護提供状況調査結果一部ご紹介

